

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

ホー・ツーニエン

ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声

YCAMとのコラボレーション

2021年4月3日(土)～7月4日(日) 10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

シンガポールを代表するアーティスト、ホー・ツーニエン

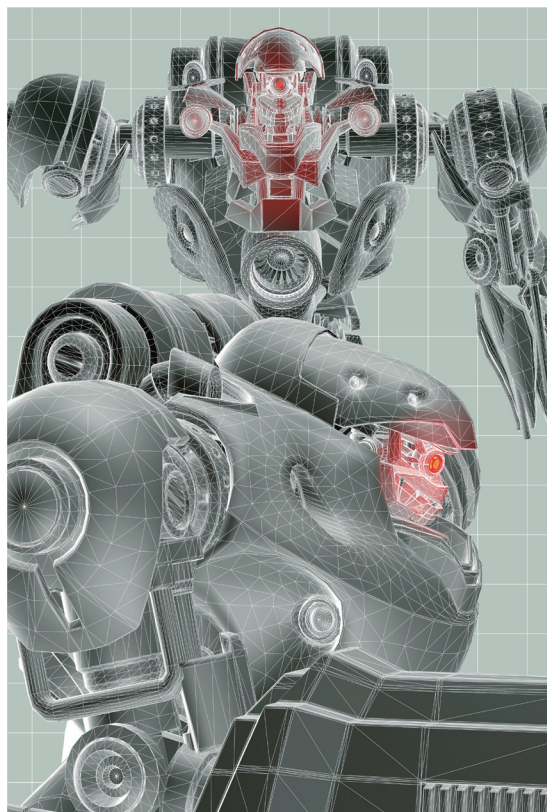
「京都学派」をテーマにVRとアニメーションによる映像インスタレーション、世界初公開

山口情報芸術センター [YCAM] では、シンガポールを拠点に活躍するアーティスト、ホー・ツーニエンによる新作インスタレーションを発表する展覧会「ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声」を開催します。

ホー・ツーニエンは、さまざまな歴史的、哲学的テキストや素材から映像作品、インスタレーション、演劇的パフォーマンスを発表してきたシンガポールを代表するアーティストのひとりです。近年では東南アジアの歴史に深い関わりを持つ、第二次世界大戦期の日本についても作品を通じて取り上げています。

本展では、哲学者の西田幾多郎や田辺元を中心に形成されたグループで、1930年代から40年代の日本の思想界で大きな影響力を持った「京都学派」をテーマに、YCAMとのコラボレーションのもと、VR(ヴァーチャル・リアリティ)とアニメーションによる新作の映像インスタレーションを発表します。

第二次世界大戦期における日本を代表する知識人たちの営為をイメージとテキストの集積によって紐解く本展は、歴史が持つ複雑性や複層性を明らかにするでしょう。ぜひご参加ください。



作品に登場するメカの3Dデザイン素材

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

国際的に活躍するアーティストとYCAMのコラボレーション



ホー・ツーニエン《旅館アポリア》2019年
photographs by Takeshi Hirabayashi
courtesy of Artist, Aichi Triennale and Edouard Malingue Gallery

YCAMは、開館以来、メディア・テクノロジーを応用した新たな表現の探求を活動の軸に据えており、これまでに三上晴子、エキソニモ、坂本龍一、カールステン・ニコライ、中谷芙二子といった第一線で活躍するアーティストたちとともに多種多様なインスタレーション作品を制作・発表してきました。本展では、シンガポールを拠点に活動する、アーティストのホー・ツーニエンとのコラボレーションのもと、新作を発表します。

ホー・ツーニエンは、歴史上の人物や出来事、伝承などを取り上げ、映画などの映像作品やインスタレーション、舞台作品など多岐にわたる形態で、東洋と西洋、伝統と近代といったアジアにおける近代の問題を主題とした作品を発表していることで知られています。歴史の複雑性、複層性を見せる彼の作品は、現代美術と舞台芸術の双方の分野から世界的に高く評価されており、2011年のヴェネツィア・ビエンナーレをはじめとして、多くの国際的な美術展や舞台芸術祭、映画祭に参加するなど、シンガポールを代表するアーティストのひとりとして活躍しています。

1年以上に渡る制作期間を経て今回発表する新作《ヴォイス・オブ・ヴォイドー 虚無の声》は、近年ホー・ツーニエンが関心を寄せる「京都学派」をテーマとしたVRとアニメーションによる映像インスタレーション作品です。西田幾多郎（1870～1945）や田辺元（1885～1962）を中心に形成され、1930年代から40年代にかけて、日本の思想界で大きな影響力を持った「京都学派」。その複雑な背景に迫っていきます。

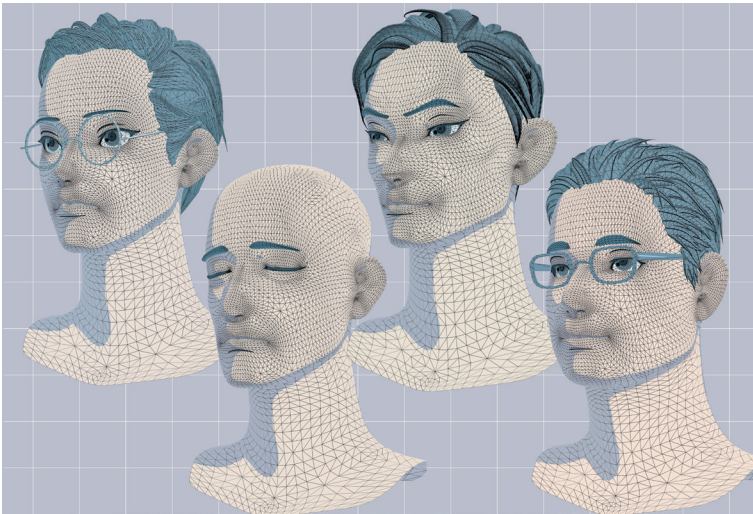
■ ホー・ツーニエン

シンガポール生まれ。さまざまな歴史的、哲学的テキストや素材から映画や映像作品、インスタレーション、演劇のパフォーマンスをつくる。近年の作品では、トラ人間（《一頭あるいは数頭のトラ》、2017年）、三重スパイと裏切り者（《名のない人》、2015年や《神秘のライ・テク》、2018年）といった変容する登場人物たちを扱っている。2011年ヴェネツィア・ビエンナーレのシンガポール館での個展をはじめとして、多くの国際的な美術展や舞台芸術祭、映画祭に招待されている。



photograph by Matthew Teo
courtesy of Art Review Asia

アニメーションとVRによる歴史の再演



作品に登場する高山岩男、西谷啓治、鈴木成高、高坂正顕の3Dモデル

本展で発表する新作《ヴォイス・オブ・ヴォイドー 虚無の声》で主に取り上げるのは、「京都学派四天王」と呼ばれた西谷啓治（1900～1990）、高坂正顕（1900～1969）、高山岩男（1905～1993）、鈴木成高（1907～1988）によって、真珠湾攻撃の直前の1941年11月末に開催された座談会「世界史的立場と日本」です。本作では、この座談会の内容を中心に、彼らと彼らを取り巻く人々が1930年代から40年代にかけて産み出した様々なテキストにアプローチしていきます。

本作は、3Dアニメーションと日本のアニメの美学を組み合わせ、VRによって鑑賞者がアニメーションの登場人物へと同一化し、より没入感のある体験をもたらします。

歴史上の人物やその逸話をもとに、公式に語られてきた歴史をイメージとテキストの集積によって紐解き、虚構や矛盾を含む複雑性を露わにさせるホー・ツーニエンと、VRをはじめとするテクノロジーを用いた新しい芸術表現を模索してきたYCAM。両者のコラボレーションによって制作される本作では、師と弟子、講演者と聴衆、加害者と被害者といった、京都学派を取り巻く錯綜した関係を描き出し、VRによる登場人物への同一化を通して、歴史の再演を試みます。

ホー・ツーニエン

ヴォイス・オブ・ヴォイド

ー 虚無の声

YCAMとのコラボレーション、2021年（世界初公開）

制作：山口情報芸術センター [YCAM]

共同制作：カディスト・アート・ファウンデーション、TPAM – 国際舞台芸術ミーティング in 横浜

助成：ナショナル・アーツ・カウンシル（シンガポール）

声の出演：笛田宇一郎（笛田宇一郎演劇事務所）、高山明（Port B）、神里雄大（岡崎藝術座）、大石将弘（ままごと／ナイロン100℃／スイッチ総研）、アギト、鶴舞裕午、村上晃一、矢吹

監督、脚本：ホー・ツーニエン

ドラマツルク、脚本、翻訳：新井知行

翻訳：辻井美穂

音響空間デザイン：Katsuhiro Chiba

VRプラットフォームデザイン：堂園翔矢（Qosmo）、中嶋亮介（Qosmo）

3Dモデリング：鳥谷部正輝

キャラクターデザイン：杉本拓也

録音：中村公輔

グラフィックデザイン：鈴木哲生

開催概要

**ホー・ツーニェン
ヴォイス・オブ・ヴォイド — 虚無の声**

YCAMとのコラボレーション

2021年4月3日（土）～7月4日（日） 10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

入場無料

休館日：火曜日（5月4日は開館）、4月22日、5月6日、12日、13日

本展覧会には、VR体験が含まれます。VR体験につきましては、対象年齢を13歳以上とさせていただきます。その他の映像作品は年齢制限なくご覧いただけます。

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：公益財団法人花王芸術・科学財団

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

関連プログラム

アーティストと制作チームによるトーク

2021年4月3日（土）14:00～15:30 会場：ホワイエ

参加無料（要申込） 日英通訳あり

サンカクトーク

2021年4月17日（土）、5月22日（土）、6月12日（土）、26日（土）

各回14:00～16:00 集合場所：ホワイエ 参加無料（要申込）

参加対象：13歳以上

作品と自分、他者の「三者」を行き来しながら対話をおこなう、サンカクトーク。作品について自分の考えを話し、他の参加者の話を聞いて、新たな視点を発見します。

担当スタッフによるトーク

2021年4月10日（土）、5月1日（土）、6月5日（土）

各回14:00～14:40 集合場所：ホワイエ 無料（要申込）

参加対象：13歳以上

本展担当のキュレーターやエディターが、作品のコンセプトや背景について解説します。

関連上映プログラム

2021年5月開催 会場：スタジオC 有料

作品やアーティストに関連する映画を上映します。詳細はYCAMのウェブサイトで発表します。

■ 関連プログラムの申込方法

関連プログラムの詳細ならびに申込方法はYCAMのウェブサイトをご確認ください。

ウェブサイト：

www.ycam.jp